

いきいき安心プランⅧまつど 令和7年度の主な事業について

計画の柱1	生涯現役社会・健康寿命の延伸	
	フレイル予防に着目した保健事業の推進	1 ページ
	都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」の推進	3
	加齢性難聴者への支援	5
計画の柱2	地域包括ケアシステムの深化・推進	
	地域包括支援センターの人員配置の柔軟化	6
計画の柱3	介護サービスの適正な供給	
	介護人材の確保・育成・定着支援	8

松戸市介護保険課
松戸市地域包括ケア推進課
松戸市高齢者支援課
松戸市健康推進課
2025/5/22

フレイル予防に着目した保健事業の推進

健康推進課

令和7年度から令和18年度までの健康増進計画である健康松戸21Ⅳに「フレイル予防」を新たに位置付け、「フレイル予防の推進」を重点的な取組の一つとする。

2-(4) フレイル予防の推進【重点的な取組】

市民の行動目標

年代に合った健康的な生活習慣を実践しよう！

フレイル(虚弱)は加齢と共に心身の機能が低下している状態です

若いときからの健康的な生活習慣
+ 高齢期の健康管理でフレイル予防



- 成長期に健康的な生活の基盤を確立し、青壮年期に健康を保持・増進することがフレイル予防の基盤となるが、高齢期には改めて「運動」「口腔」「食事」「社会参加」の観点から生活習慣を見直していくことが必要。
- 健康松戸21Ⅳでは、生涯を通じた健康づくりの観点からフレイル予防を推進していく。

松戸市の取り組み

- ①フレイルについて普及啓発する
- ②フレイル予防のための個別支援を行う

- ポピュレーションアプローチ（通いの場等におけるフレイル・オーラルフレイル予防の推進）、ハイリスクアプローチ（高齢者へのアウトリーチによる個別的支援）を引き続き実施。
- これまで蓄積した経験をもとに、より効果的、効率的な方法を工夫し実施していく。

取組指標（健康松戸21Ⅳ）

- フレイルを認知している人の割合（60歳以上）
現状値(令和4年度)53.3%⇒目標値(令和16年度)80.0%
- フレイル予防の多面性から、取り組んでいる人数の把握が困難であるため、把握可能な「フレイルを認知している人の割合」を評価指標とした。
- 認知度が向上すれば取り組む人が増えるとの考えからこの評価指標を設定しているが、目標の進捗・達成状況がより反映される指標の検討が必要。

令和6年度取り組み

● ポピュレーションアプローチ

通いの場等のグループや団体への講話・フレイルチェックや、がん検診会場等における簡易的なフレイルチェックを行った。（延べ3,286人）



5m歩行速度測定、
握力測定、滑舌
(口腔機能)検査
を実施



フレイル予防講座「まつどフレイル予防チャレンジ」

● ハイリスクアプローチ

質問票や計測によるフレイルチェック、医療・介護・健診データの活用により、低栄養や口腔機能低下等の恐れがある高齢者を把握し、保健指導や医療・サービスにつなげた。（427人）

● 支援者向けフレイル予防研修会

支援者に向けて、難聴高齢者の実態、難聴とフレイル、加齢性難聴予防、高齢者の難聴へのアプローチ等を学んだ。（51人）

フレイル予防は取り組み分野の一つであるが、食生活、運動、健診、こころの健康づくり、健康づくりネットワークなど全ての取り組み（13分野）が連動することで最終目標の「健康寿命の延伸」を目指す。

都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」の推進

計画PP. 80-81 高齢者支援課

1 概要

首都近郊ならではの特性を活かした地域資源を活用して、高齢者の社会参加を推進しつつ、その介護予防効果を検証することを目的として、「国立大学法人千葉大学予防医学センター」及び「一般社団法人日本老年医学的評価研究機構（JAGES）」と本市が共同で、都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」として科学研究プロジェクトを実施しています。

この「松戸プロジェクト」のもと、高齢者の社会参加による介護予防に資する活動を推進しており、その効果を科学的に研究するため、協定の3者に加え、NPOや市民ボランティア（パートナー）の皆様と協働しています。

2 令和6年度進捗

●パートナーと協力して講演会等を実施しました！

10月「令和6年度まつど生涯学習大学講座」において松戸プロジェクトの紹介等を実施し、134名が参加しました。

2月、「元気応援くらぶ交流研修会」を開催し、通いの場代表者が交流する機会を創出しました。いずれも、パートナーと協力して実施しました。



●「元気応援くらぶ」が100か所に到達！

「松戸プロジェクト」が支援を行っている高齢者の通いの場「元気応援くらぶ」が、8月に100か所に到達しました。

また、9～10月にかけて、代表者へ活動状況の確認を実施し、登録団体へ必要な支援を行えるよう困りごと等の確認を行いました。



●グリーンスローモビリティが2地域で運行開始！ 計4地域で本格運行中！

「松戸プロジェクト」の一環で事業をスタートしたグリーンスローモビリティ地域推進事業ですが、4月に矢切地区、5月に六実六高台地区で新たに本格運行を開始し、既に運行を開始している河原塚地域、小金原地区と合わせて計4地域で本格運行を行っています。



矢切地区



六実六高台地区

●松戸プロジェクト1～2期（2016年～2023年）における介護予防事業等の評価を実施

松戸プロジェクト1～2期における介護予防事業等の評価を実施しました。

その結果、元気応援くらぶ参加により、5～6年後に要介護認定（要介護2以上）を受けるリスクが19%低下し、**1000人あたり63人の要介護認定を抑制した**ことに相当することがわかりました。

要介護認定（要介護2以上）			
		発生率	17.5%
		社会参加なし群	13.8%
		元気応援くらぶ参加群	11.6%
		その他の社会参加群	11.6%
元氣応援くらぶ参加により、 1000人あたり63人の要介護認定を抑制 することに相当			
全体	HR*	95% 信頼区間	p値
社会参加なし群		参照値	
元氣応援くらぶ群	0.81	0.65-0.99	0.042
その他の社会参加群	0.59	0.52-0.67	0.000

元氣応援くらぶ参加群は、社会参加なし群に比べ、5～6年後に要介護認定（要介護2以上）を受けるハザードが19%低く、統計学的にも有意であった。

その他の社会参加群は、社会参加なし群に比べ、5～6年後に要介護認定（要介護2以上）を受けるハザードが41%低く、統計学的にも有意であった。

元気応援くらぶ参加者で要介護認定を受けるリスクが低下したか

3 令和7年度の取り組み（予定）

引き続き、「元気応援くらぶ」等の高齢者の社会参加が促進される取り組みに対する支援を実施するほか、市内の高齢者を対象に追跡調査を実施し、介護予防の評価及び社会参加や生活状況が健康づくりに及ぼす効果について研究を行います。

松戸市の取組事例（地域資源の見える化、グリスロによる外出支援）

1. 基本情報・課題

- ◆ 千葉県松戸市 人口500,428人 高齢化率25.9%
- ◆ 東京都、埼玉県に隣接し、首都圏のベッドタウンとして1960~70年代に人口急増した地域。子育て世帯の転入も続いているが、UR団地等高齢化が著しい地域も存在している。
- ◆ 公共交通や店舗等の資源が比較的豊富な都市部にあっても、スポット的に高齢化の著しい地域が存在。
- ◆ 運転免許返納等により、車での移動から徒歩の行動範囲になると、店舗までの長距離歩行や、荷物を持った場合歩行が困難など、日常生活において「買い物」が地域課題となる地域がある。

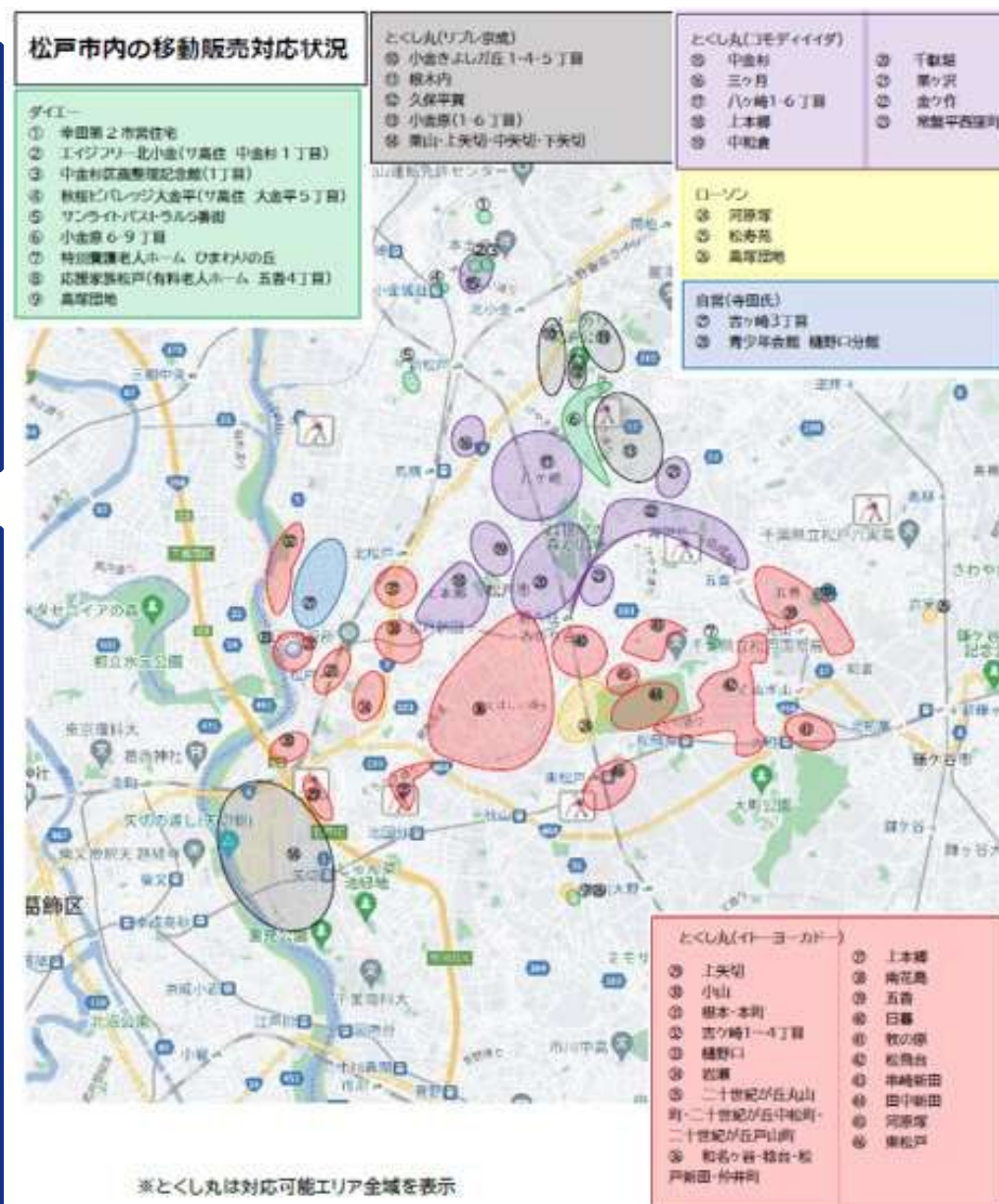
2. 取組

- ◆ これまで、医療・介護・福祉拠点を中心としていた情報収集を、事例の移動販売をはじめ、介護予防の「通いの場」や移動支援ツールなど、日常生活のニーズに密着した「地域資源」の把握と見える化に取り組んでいる。
- ◆ 生活支援コーディネーターによる地域資源の情報等を市がとりまとめ、「地域資源マップ」として見える化し、地域包括支援センター等にフィードバックしている。
- ◆ 高齢者の社会参加の促進、外出機会の創出を通じて、孤立化の防止や、介護予防の推進、地域の活性化を実現させるためのツールとして、グリスロスローモビリティを活用（4地区。運行人数280人/月のエリア有）



グリスロ(グリーンスローモビリティ)『松戸モデル』
: 時速20キロ未満で公道を走ることができる電動車
を活用した小さな移動サービス

- ① 道路運送法による登録・許可不要の輸送
- ② 運営主体は地域住民(自治会など)
- ③ 市は地域へグリスロ車両の貸与と運営費用の一部補助、伴走支援を実施
(平日午前1便、午後1便を行うこと等が条件)



加齢性難聴者への支援



令和7年度予算額：358万1千円
高齢者支援課



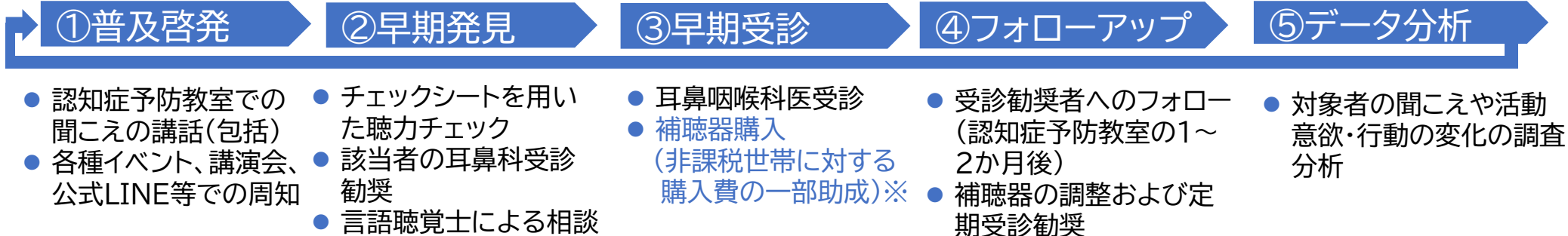
●高齢者が活動的で豊かな生活を送るための聞こえの取り組みを開始します

1 目的

高齢者の聞こえに関して、難聴の早期発見、早期受診等を進め、補聴器購入費の一部助成を含めた体系的な対策により、介護予防や社会参加の促進を図る。

2 事業の概要

5つの要素をパッケージ化し、高齢者の聞こえの支援体制の構築を行う。



※ 補聴器購入費への一部助成

- 対象者:補聴器購入日(令和7年4月～)において、松戸市に住民登録がある65歳以上
市民税非課税世帯であり、その他の市税・保険料の滞納がない
耳鼻咽喉科の医師により、補聴器使用が必要と診断されている
聴覚障害の身体障害者手帳の交付を受けていない
 - 補助額:医療機器認定を取得した補聴器購入費用に対して、3万円を上限に助成(1人1回限り)
 - 申請期間:令和7年6月から受付開始予定
- 以上の要件を
全てみたす者
※想定:約100人

地域包括支援センターの人員配置の柔軟化について

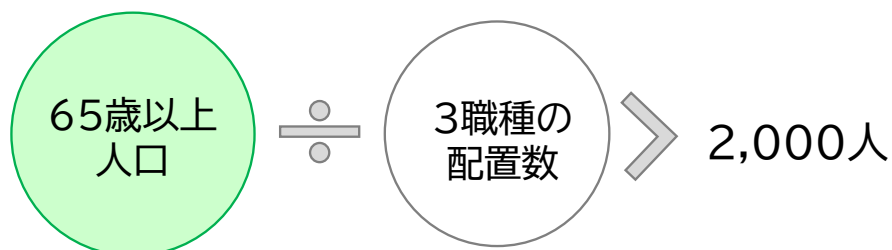
担当課：地域包括ケア推進課

地域包括支援センターの人材確保に向け、専門職の配置基準を国基準を超えた部分については3職種の配置割合の柔軟化を行うとともに、人材育成を目的とした配置も可能とする。全国的に不足する主任介護支援専門員の将来的な配置や介護支援専門員の育成を目指す。

■ これまでの人員配置(～令和6年度)

国基準

高齢者人口3,000人～6,000人ごとに3職種(保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員及び準ずる者)各1名ずつを配置



松戸市 基準

① 高齢者人口 → 3職種の負担割合に応じた配置



② ①の積算で専門職が3人となる地域は+3職種1名

3職種の負担軽減を念頭においた配置基準だが、人員確保の負担が大きいことが課題

■ 人員配置における負担軽減策(令和7年度～)

① 3職種の配置の柔軟化

3職種の配置基準を、現在の本市基準のうち、国の基準と加配部分を明確化。

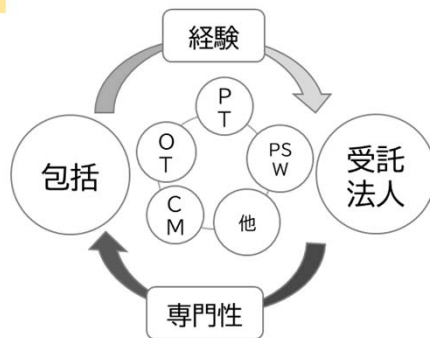
→加配分は3職種であれば職種は問わない
(以下、職種フリー)

各地域1名以上の加配となる

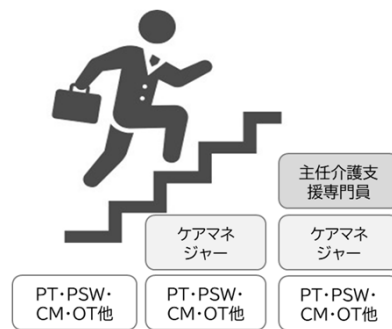
基準変更に伴い、
職種の固定がはずれ、柔軟な
職種の配置が可能に。

■ 期待される効果

新たな専門性の注入・経験の
還元

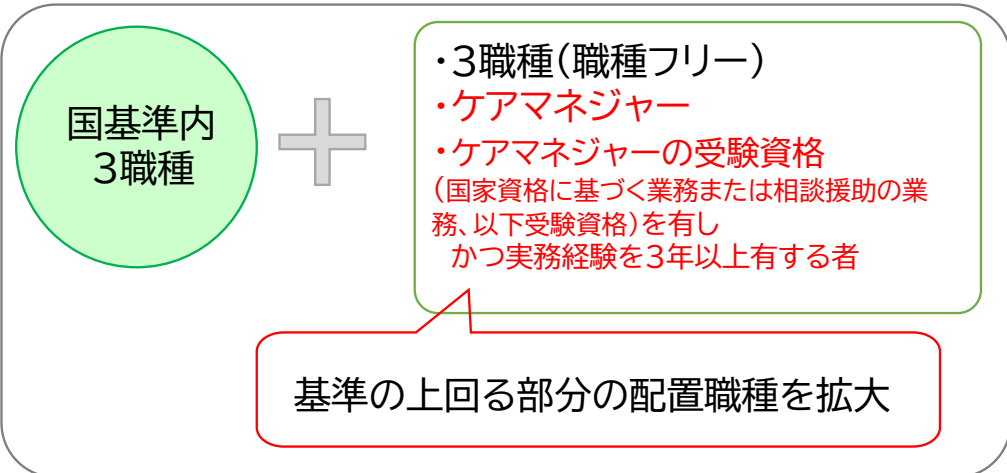


受託法人と連携した人材育成

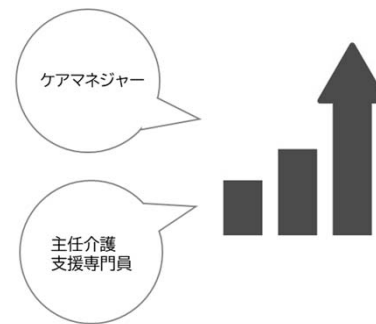


② 人材育成枠の創出

国の基準を超えた部分を人材育成枠として活用。



ケアマネジャー・主任介護支援
専門員の育成



介護人材 の 確保・育成・定着支援

担当課：介護保険課

1. 外国人介護職員を紹介する動画発信

確保
支援

概要

主に来日前の外国人に向け、「日本の介護の仕事を知ってもらうこと」「松戸市を知ってもらうこと」を目的として、松戸市内の介護施設で活躍する外国人介護職員を紹介する動画発信を令和6年度より実施しており、さらに内容を充実させ、令和7年度も引き続き動画発信を行います。

令和6年度進捗 30秒程度のショート動画を40本公開

松戸市についての質問や、介護の仕事、日本語の勉強、これからの目標、日本で働きたいと考えている方へのメッセージ等、母国語で回答していただく、インタビュー形式の動画を制作しました。

令和7年度予定 10分程度の動画を制作予定

内容

内容

施設で実際に介護をする様子や、利用者に日本語で声掛けをしている様子、日本語を勉強している様子等、実際に活躍している様子を動画にし、外国人介護職員が働く様子がイメージしやすいような構成にします。

活用

施設ですでに外国人が活躍している事業所には、現地で人材獲得する際にご活用いただき、またこれから外国人介護職員の雇用を検討する事業所にとっては、外国人が働くというイメージがしやすくなるような動画を制作します。

動画公開先

松戸市介護保険課
公式YouTube



2. 介護支援専門員更新研修補助金

定着
支援

概要

介護支援専門員更新研修のうち

- 専門研修課程Ⅰ：実務経験6か月以上3年未満の方が対象
 - 専門研修課程Ⅱ：実務経験3年以上の方が対象
- を修了した方を対象とし、研修受講費用の一部を補助します。

補助額

研修費用の半額

- ※ 介護支援専門員更新研修/専門研修課程Ⅰ は 上限21,000円
- 介護支援専門員更新研修/専門研修課程Ⅱ は 上限16,000円

3. 介護福祉士資格取得支援事業補助金

定着
支援

概要

介護福祉士国家試験合格者に対し、介護福祉士国家試験受験手数料18,380円のうち、一部を補助します。令和7年度については、第37回（令和6年度）介護福祉士国家試験に合格し、介護福祉士の資格登録を行っている方を対象とします。

補助額

介護福祉士国家試験の受験手数料のうち、上限10,000円

介護人材 の 確保・育成・定着支援

担当課：介護保険課

4. 外国人介護職員向け日本語読み・書き教室

育成
支援

定着
支援

1 教室開催の背景

日本での日常生活を通して、日本語を「聞く」「話す」ことを習得する外国人の方は多い一方で、日本語を「読む」「書く」ことを不得意とする外国人の方は多く、特に介護現場においては、専門用語が多いこと、また介護記録や申し送り等を書くことなど、「読む」「書く」力は必須となります。日本において、長く介護の仕事を続けていただくため、介護現場で役に立つ日本語の読み・書きの基礎力を高める教室を開催します。

2 目的

日本語能力の底上げを行うことにより、介護職員初任者研修や介護福祉士実務者研修の修了、介護福祉士国家試験の合格等を目指し、松戸市における介護人材の定着を図ることを目的とします。

3 概要

- オンライン授業及び対面授業のハイブリッド形式
- 申込者が勤務する施設の方に、本教室で習得してほしい内容や日常業務での日本語能力等をヒアリングし、より効果的な内容をカリキュラムします。

